書評

『支台歯形成のベーシックテクニック』

岩田健男（東京都開業）［著］

私は卒後間もない時期より、岩田健男先生の主催する卒後研修会（デンタルヘルスアソシエート）にて学ばせていただいている。研修会の講義のなかで、先生は長期経過症例をもとに常に科学的根拠に基づく内容を、臨床経験の浅い私でも理解できるよう、明確かつわかりやすくご教授してくださっている。

先生がかねてより口にされている「ベーシック（基本）とは、困ったときに戻るべき原点のこと」という言葉がよく理解できるのが本書の特徴ではなかろうか。今回出版された『支台歯形成のベーシックテクニック』では先生の講義内容が事細かに解説されているだけでなく、多岐にわたる支台歯形成テクニックがビジュアルに再現されているので、臨床的にイメージしやすい構成になっており、まさに基本をマスターするのに適していると感じている。

第１章は、支台歯形成の原則についての内容である。原則というと大学生レベル、あるいは大学院生レベルの原則論と捉えがちだが、ここでは支台歯形成の不備による失敗を４つの課題に分類し、それらを克服するための10原則についてまとめあげ、臨床に直結した内容を原則で解き明かしている点が秀逸である。つまり、エビデンス（事実）をもとに一つひとつの原則を理解できるので、臨床経験の浅い若手歯科医師でも失敗に対する診断力が高まり、補綴を成功へ導くための臨床テクニックを学ぶことができる。また、この章のなかで、先生自身が30年にわたって使い続けておられるダイヤモンドバーも紹介されており、後述される支台歯形成手順がより身近なものになっている。

第２章以降では、支台歯形成法がステップに分けて詳しく説明されている。日常臨床で活用頻度の高い全部被覆冠（全部鋳造冠、セラモメタル）だけでなく、MODオンレーとその他の部分被覆冠の形成についても紹介されている。書中、先生は「むやみに健全な歯質を削除して大型の修復物を装着することは、歯と歯周組織の保存という観点から決して得策ではないし、歯質の面積が減じて保持抵抗形態を損なう結果を招いてしまうことも多い」と仰っている。歯質の保存性に優れ、かつ修復歯の耐久性の向上に繋がる形成法を身につけることが臨床での武器になることは間違いないだろう。

デンタルダイヤモンド社・A4判180頁・オールカラー・定価（本体 9,000円＋税）

第４章は、歯肉縁下形成におけるフィニッシュラインの形成法に関する内容が綴られている。歯周組織を侵襲せず予知性をもって治療するためのマージンの設定位置、かつそれに伴う歯肉圧排法、そしてそれを再現するための精密印象採得法を示してくれている。審美症例の長期経過例を臨床術式とともに学ぶことができるので、審美補綴の治療を行う際のガイドライン（指針）が理解できる。

第８章は、ポーセレンラミネートベニア法、続く第９章は、オールセラミッククラウンについてであるが、昨今の審美要求が高まった時代において、それらの支台歯形成法を習得しておくことは患者の要望に応えるためのマストと言えよう。ここでは、支台歯形成だけではなく、適応症の選択基準から接着操作までを、症例の術前から術後にわたって、経過を多くの症例写真とともに詳説してあり、読み応えのある章である。

全章をとおして、本書は私たち若手歯科医師が支台歯形成というものを基礎から着実に学ぶための最適な教科書になり得ると感じた。歯冠補綴を行うにあたり、予知性の高い診断や治療術式を実践するためのエッセンスが数多く盛り込まれ、それらの長期推移を見ることができる。我々若手にとっては経験値で治療結果を予測することがやさしくないため、本書を精読することは、明日から使えるテクニックを習得でき、自信をもって治療を行うための大きな糧になると考える。

文・木村正人
（千葉県勤務医／デンタルヘルスアソシエート受講生）